

てどりがわ  
手取川

令和三年五月三十一日

作詞 大中臣正比呂

(一)

春巡り<sup>めぐ</sup>短き命惜しむらく

果ては水辺に浮かぶとも

あなたの傍に<sup>そば</sup>桜花<sup>さくらばな</sup>

ああ、散りゆく今宵<sup>こよい</sup>手取川

(二)

夏の風涼しく吹けば思い出す

遠き青葉の富士の峯

あなた迎える<sup>かりのみや</sup>飯宮

ああ、花咲く未来手取川

(三)

憐れみて<sup>かささぎ</sup>鵲来たり敷き詰めし

渡す紅葉の橋の先<sup>もみじ</sup>

あなたに逢える一念は

ああ、星の彼方<sup>あなた</sup>の手取川

(四)

日は満ちて月に別れを告げる今

遠き根雪<sup>ねゆき</sup>の高千穂に

あなたは行ってしまったの

ああ、幸多かれと<sup>あはれ</sup>手取川

